

実開平5-9345

(43) 公開日 平成5年(1993)2月9日

(51) Int.Cl.⁸A 47 B 88/04
88/00

識別記号

A 6578-3K
B 6578-3K

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数15(全 4 頁)

(21) 出願番号 実願平4-35263

(22) 出願日 平成4年(1992)4月28日

(31) 優先権主張番号 A-902-91

(32) 優先日 1991年4月30日

(33) 優先権主張国 オーストリア (A T)

(71) 出願人 391013232
ユリウス・ブルム・ゲゼルシャフト・ミツ
ト・ベシュレンクテル・ハフツング
JULIUS BLUM GESELLS
CHAFT MIT BESCHRANK
TER HAFTUNG
オーストリア国 アー6973 ヘキスト、イ
ンドウストリーシュトラッセ 1

(72) 考案者 クラウス・ブリュージュトレ
オーストリア国 アー6973 ヘキスト、リ
ュツテネン 5

(74) 代理人 弁理士 萩野 平 (外3名)

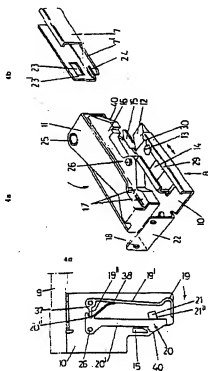
最終頁に続く

(54) 【考案の名称】 ひきだし用の組付け具

(57) 【要約】

【目的】 ひきだしを引出しレール (7) に容易に着脱できると共に思わぬ脱落を防止できる組付け具 (8) を製作する。

【構成】 組付け具の水平旋回可能をフックが引出しレールのスロットに係止される。フックは係止状態でこの旋回軸とは離れた方の係止個所の近くにおいて組付け具の組付け板に支えられる。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 ひきだし用の組付け具であって、ひきだしの両横にひきだし案内具の引出しレールが取りはずし可能に固定されていて、ひきだしに組付け具が固定されており、組付け具は鉛直状の旋回軸を中心として旋回可能なフックを介して前記引出しレールの切欠きに係合して引出しレールの係止縁に接触している形式のものにおいて、フック(16, 20)は、前記旋回軸(26)側とは反対側の、引出しレール(7)の係止縁(23')との接触箇所の近くにおいて、ひきだし又はひきだしに固定された組付け具(8)の組付け板(10)に支えられていることを特徴とする、ひきだし用の組付け具。

【請求項2】 組付け板(10)がフック(16)を支える円弧状の縁部ウェブ(21)を有している、請求項1に記載の組付け具。

【請求項3】 フック(16)がその端面によって組付け板(10)の縁部ウェブ(21)に支えられている、請求項2に記載の組付け具。

【請求項4】 フック(16, 20)がそのフック突起側に直角に突出した突出部(28)を有していて、この突出部(28)は組付け板(10)のスリット(21')内で案内されている、請求項1に記載の組付け具。

【請求項5】 フック(16, 20)がその旋回軸の個所に長穴(27)を有している、請求項1に記載の組付け具。

【請求項6】 フック(16, 20)が二腕レバーとして構成されており、フック(16)にそのフック突起(40)とは反対側の端部につまみ(11)が一体形成されていて、このつまみ(11)はフック(16)に対してほぼ平行に延びてフック(16)と共にU字をなしているか、又はフック(20)に別体のL字状もしくはU字状のつまみ(19)が作用していて、フック(20)とつまみ(19)とが互いに反対方向へ旋回可能である、請求項1から5までのいずれか1項に記載の組付け具。

【請求項7】 フック(20)に、つまみ(19)を押す弾性的な舌片(38)が設けられている、請求項6に記載の組付け具。

【請求項8】 組付け板(10)に剛性的なフック(15)が設けられていて、このフック(15)は組付け状態において引出しレール(7)の1つの水平ウェブの下へ入り込んでいる、請求項1から7までのいずれか1項に記載の組付け具。

【請求項9】 組付け板(10)に1つのキー(14)が支えられている、請求項1から8までのいずれか1項に記載の組付け具。

【請求項10】 キー(14)が引出しレール(7)の縦方向で押しずらし可能である、請求項9に記載の組付け具。

【請求項11】 組付け板(10)に1つのウェブ(29)が設けられており、このウェブ(29)はキー(14)を保持していて縁部にラック区分(30)を有しており、このラック区分(30)に隣接してキー(14)内に十字ねじ回しを受容するための穴(13)が形成されている、請求項10に記載の組付け具。

【請求項12】 キー(14)が1つの可換の区分(31)を有しており、この区分(31)はひきだしを閉じた際に支持レール(6)のすぐ上側に位置するか又はこの支持レール(6)に接触し、組付け板(10)に1つの突出部(34)が設けられており、この突出部(34)に前記区分(31)がキー(14)の押しずらしに伴って接触する、請求項10に記載の組付け具。

【請求項13】 組付け板(10)が1つの穴(33)を有しており、この穴(33)へキー(14)の可換の区分(31)の突起(32)が、引出しレール(7)へキー(14)が接触していない場合、嵌まっている、請求項11又は12に記載の組付け具。

【請求項14】 つまみ(11)が一体形成されているフック(16)のアームに可換箇所(17)が設けられている、請求項6に記載の組付け具。

【請求項15】 組付け板(10)が1つの固定用ウェブ(22)を有していて、この固定用ウェブ(22)を介して組付け板(10)がひきだしの正面板(9)に固定可能である、請求項1から14までのいずれか1項に記載の組付け具。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の組付け具を備えたひきだしの側面図である。

【図2】 図1中のBの方向で背後から示す断面図である。

【図3】 図1中のAの方向で下から示す断面図である。

【図4】 4aは、本発明の組付け具を下から見た斜視図である。4bは、本発明の組付け具を下から見た斜視図である。4cは、本発明の組付け具の下面図である。

【図5】 フックの平面図である。

【図6】 フックの一実施例の縦断面図である。

【図7】 図6とは別の実施例の縦断面図である。

【図8】 高さ調節後の組付け具を示す側面図である。

【図9】 高さ調節なしの状態での組付け具を示す側面図である。

【符号の説明】

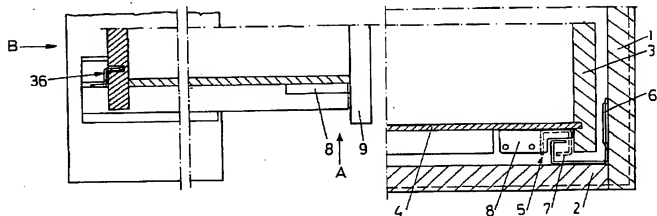
- 1 家具の外わく側壁
- 2 外わく底
- 3 ひきだし側壁
- 4 ひきだし底
- 5 引出し案内具
- 6 支持レール
- 7 引出しレール
- 8 組付け具

- 9 正面板
10 組付け板
11, 19 つまみ
12 キー面
14 キー

- 16, 20 フック
21 縁部ウェブ
21' スリット
23 スロット
25, 26 軸

【図 1】

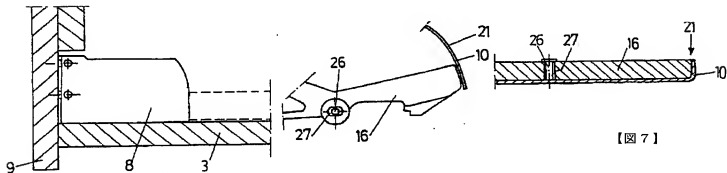
【図 2】



【図 3】

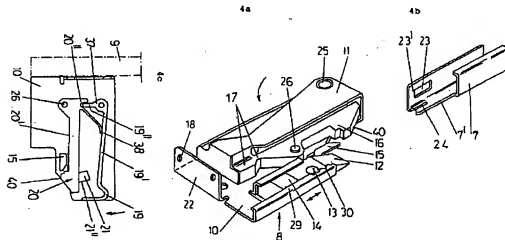
【図 5】

【図 6】

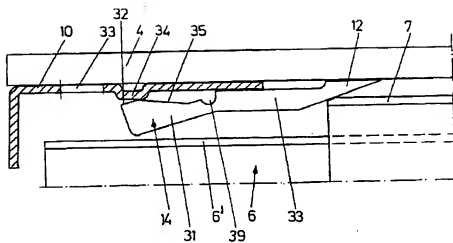


【図 4】

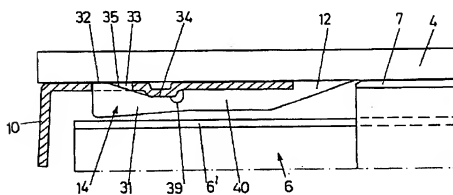
【図 7】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

(72) 考案者 エリツヒ・レーク
 オーストリア国 アー6973 ヘキスト、キ
 ユツフエルシユトラーゼ 7

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、ひきだし用の組付け具であって、ひきだし両横にひきだし案内具の引出しレールが取りはずし可能に固定されていて、ひきだしに組付け具が固定されており、組付け具は鉛直状の旋回軸を中心として旋回可能なフックを介して前記引出しレールの切欠きに係合して引出しレールの係止縁に接触している形式のものに関する。

【0002】

特に、本考案は、引出しレールと支持レールとが分離不能なひきだし案内具を備えているひきだしに関する。一般にこの種のひきだし案内具においては、ころ部材がキャリッジ内に支承されている。

【0003】

【従来技術】

従来2種の引出し案内具が知られており、これらの引出し案内具の場合、ころ部材は直接レールには固定されてなく、固有のキャリッジに配置されている。最もよく知られている方のひきだし案内具はいわゆるボールころひきだしであって、引出しレールと支持レールとの間の荷重伝達が鋼球を介してなされる。鋼球自体はボールケージとして構成されたキャリッジ内に保持されている。

【0004】

別のひきだし案内具は最近市販されるに至ったもので、円筒ころを有していて、これらの円筒ころは、レールに直接支承されている通例のものと同じ形式である。このころはやはりボールと同様にキャリッジ内に保持されている。キャリッジ自体は力の伝達を行なわない。

【0005】

ところで、引出し案内具全体を家具外わく内に組み付け、次いでひきだしを懸架することが可能な形式のひきだし並びに引出し案内具が知られるに至っている。

このような形式のものは、例えば掃除する目的でひきだしを簡単に取り出すこ

とも可能にする。

【0006】

この種の例がオーストリア国特許第384535号明細書およびドイツ国実用新案第8903741号明細書に示されている。

【0007】

【考案が解決しようとする課題】

本考案は、引出し案内具へのこの種のひきだしの着脱を容易にすることを課題とする。

この場合、ひきだしは一面において容易に引出しレールに係止可能であってかつ容易にその係止を解除可能であるようにする必要がある。他面においては、引出しレールにおけるひきだしの保持が充分確実で、引出しレールからのひきだしの思わぬ脱落が絶対的に防止されねばならない。

【0008】

【課題を解決するための手段】

このような課題を本考案は次のようにして解決した。

すなわち、組付け具のフックがその旋回軸側とは反対側の、引出しレールの係止縁との接触個所の近くにおいて、ひきだし又はひきだしに固定された組付け具の組付け板に支えられているようにしたのである。

【0009】

重要な点は、フックが旋回軸に支えられ、その結果衝撃的な動きに伴ってレールからはずれてしまうことになってではなくて、旋回軸から離れている前部のフック突起の個所に支えられているという点である。

【0010】

一実施態様によれば、組付け板がフックを支える円弧状の縁部ウェブを有しており、この縁部ウェブにフックの端面が支えられる。

別の実施態様によれば、フックがそのフック突起にこのフック突起に対して直角をなす突出部を有していて、この突出部が組付け板のスリット内で案内されている。

【0011】

以上いずれの場合もフックの直接支持が係止個所の近くでなされる。

【0012】

フックが二腕レバーとして構成されていると有利である。この場合の一実施態様によれば、フックのフック突起とは反対側の端部に1つのつまみが一体成形されており、このつまみはフックとはほぼ平行に延びていてフックと共にU字をなしている。この二腕レバーには可撓箇所が設けられており、これによって、つまみへ押し力を加えた場合レバーが弾性変形し、その結果フックは引出しレールにおける係止部から転位する。

【0013】

別の実施態様によれば、フックに別体のL字状又はU字状のつまみが作用しており、このつまみは組付け板上に支承されており、フックとつまみとが互いに反対方向へ旋回可能である。

【0014】

この実施態様は操作性の改良をもたらす。というのは、つまみの自由端部をひきだし横へ向かって押し動かすことができるからである。この場合フックは逆方向へ動く。組付け具はひきだしの底の下、それもひきだし底がひきだし側壁と共に形成するコーナー部分に位置しており、その結果この実施態様が組付け具への接近の容易さを有することが判った。

【0015】

本考案の別の実施態様の場合、組付け板に1つの剛性的なフックが設けられており、このフックは組付け状態では引出しレールの1つの水平ウェブの下へ入り込む。このフックによって、ひきだしは強い力が加えられたとしても引出し案内具の引出しレールから思わぬ脱落を生ずることはない。

【0016】

組付け板上には、引出しレールの縦方向で押しずらし可能な1つのキーが配置されている。このキーは一面において支持ブロックとして役立てられる。すなわち、ひきだしが家具外わく内へ押し込まれた際このキーは外わく側の支持レール上へ乗り、これによってひきだしの安定した保持を保证する。また、他面においてこのキーはひきだしの高さ調節に使われる。すなわち、キーのくさび状のキー

面を引出しレールの水平ウェブ上へ押しずらすことによってひきだしは持ち上げられることになる。

【0017】

【実施例】

次に、図面に示した実施例に従って本考案を説明する。

図中では、家具の外わく側壁が符号1で、外わく底が符号2で示されている。ひきだし側壁は符号3で、ひきだし底は符号4で、ひきだしの正面板は符号9でそれぞれ示されている。ひきだし底4の下には引出し案内具5が配置されている。この引出し案内具5は、ひきだし両側において外わく側壁1に固定されて支持レール6と引出しレール7とから成っており、この引出しレール7にひきだしが係止されている。支持レール6と引出しレール7の間には、ころが支承されたキャリッジが配置されている（図示せず）。ひきだし底4の下には引出しレール7の横もしくは上側に本考案の組付け具8が位置している。引出しレール7はその後端部に1つのフック36を有しており、このフック36はひきだしの側壁3又は後壁の孔に嵌まっている。ひきだしは正面板9のところで本考案の組付け具8を介して引出しレール7に連結される。

【0018】

組付け具8は組付け板10を備えていて、この組付け板10は前端に屈折したウェブ22を有している。このウェブ22は固定用ウェブとして使われ、ねじを通す穴18を有している。ねじによって組付け具8が正面板9に締付け固定される。組付け板10はまた旋回可能なフック16又は20、つまみ11又は19、キー14を有している。

【0019】

ひきだしを組み付けるため、つまり、ひきだしを引出しレール7上に位置固定するためには、ひきだしを引出しレール7上へ乗せて後方へ押しずらし、引出しレール7のフック36をひきだしに係合させればよい。この場合、ひきだしが引出しレール7上でこの最後方の位置を占めると、組付け板10の旋回式のフック16又は20が引出しレール7のスロット23に係合する。これによって引出しレール7はひきだしと連結される。というのは、もはやひきだしは押しずらされ

ず、フック36からはずれることがないからである。

【0020】

組付け板10にはフック15が設けられており、これらのフック15は引出しレール7の水平ウェブ7'の下へ係合する。これによってひきだしは上へ持ち上がってしまうことはない。引出しレール7の前端部にはY字状のスリット24が形成されており、これに対応して組付け板10にはウェブ状の突起が設けられている。このウェブ状の突起がスリット24に嵌まり込めば、各引出しレール7がひきだしに対して横方向でも位置ぎめされる。

【0021】

図4の4aおよび4bに示す実施例の場合、つまみ11がフック16に一体形成されている。フック16は二腕レバーとしてつくられていて弾性的な可撓箇所17を有している。つまみ11は軸25に支承されている。

組付け具8、ひいてはひきだしを引出しレール7からはずすには、つまみ11を図4の4aおよび4b中の矢印に示す方向へ押し動かす。これによって、軸26に支承されているフック16の正面板9側のレバーアームが可撓箇所17において曲げられ、引出しレール7のスロット23に係合していた突起40がはずされる。

【0022】

例えばひきだしへ強い引き力が加わった場合にもフック16もしくは突起40がスロット23からはずれてしまうことがないようにするため、フック16は直接軸26には支えられていない。すなわち、フック16は軸26の範囲に図5～図7に示すように長穴27を有しており、フック16の支持は、引出しレール7の係止縁部にフック16が接触した状態で突起40の直近で行なわれる。係止縁部23'はスロット23の縁部によって構成される。

【0023】

図6に示す実施例においては、フック16が直接その自由端部が組付け板10の端部ウェブ21に接触することによって支えられる。端部ウェブ21の代りに、組付け板10にスリット21'を形成し、このスリット21'にフック16の突起28を係合させてもよい。この場合スリット21'および突起28の両方の

縁部がフック16のための支持部をなす。

【0024】

図4の4cに示す実施例は図4の4aおよび4bの場合と基本的には同じ機能のものである。ただし、フック20をスロット23からはずすためには、つまみ19の正面板9から離れている方の端部を矢印方向へ押す。この場合つまみ19は軸37上に支承されていて二腕式レバーとして構成されており、一方のレバーアームが本来のつまみ部分19'をなし、他方のレバーアーム19''が直角に延びている。フック20もやはり図4の4aおよび4bの場合同様に二腕レバーとして構成されているが、一方のレバーアーム20''は本来のフック20をなすレバーアーム20'に対して直角をなしている。つまみ19が図4の4aおよび4b中の矢印方向へ動かされると、つまみ19のレバーアーム19''がフック20のレバーアーム20''を押してスロット23からはずす。連結状態ではフック20の支持が突起28を介してスリット21'の縁部21''においてなされる。フック20はまた一体に設けられた弾性的な舌片38を有していて、この舌片38はつまみ19を支えている。

【0025】

引出しレール7に対するひきだしの高さ位置を調整できるようにするために、組付け板10にキー14が設けられている。このキー14は前部のキー面12を有し、このキー面12はひきだし底4と引出しレール7の上部の水平ウェブとの間へ挿入することができる。キー14はまた1つの穴13を有していて、組付け板10のウェブ29によって片側に沿って保持されている。ウェブ29の縁部にはラック区分30が形成されている。ねじ回しを穴13に差し込んで回せば、ねじ回しがラック区分30とがかみ合い、キー14を二重矢印の方向で押しずらすことができる。

【0026】

キー14が高さ調節に利用されない場合、つまりひきだし底4が直接引出しレール7上に位置している場合、図9に示す位置を占める。この場合、キー14は後部31を有していて、この後部31は曲げ箇所39を介して前部40に結合されている。後部31には突起32が設けられていて、この突起32は組付け板1

0の穴33に底まっている。組付け板10は穴33よりも前の個所にキー14へ向かって突出した突出部34もしくは隆起部を有している。キー14の後部31は後部のキー面35を有している。

【0027】

ひきだしの高さを調整する必要がある、キー14が引出しレール7へ向かって動かされ、前部のキー面12がひきだし底4と引出しレール7との間へ押し込まれる。同時に後部31が組付け板10の穴33からはずれてキー面35が突出部34に接触する。これによって、図8に示されているように、後部31は組付け板10によって押し下げられることになる。このような形式で後部31は家具外わく内へひきだしを挿入した際に支持レール6の上側の水平ウェブ6'に乗る支持ブロックとして役立てられる。この支持ブロック7の機能は高さ調節によって支障を生ずることはない。